



JA ASAHIKAWA

あさひかわ

http://www.ja-asahikawa.or.jp

頌春



特集

新春を迎えて

よい食プロジェクト

農家戸別所得補償制度

第4回江丹別そばセミナー

Aコープ大創業祭・コンプライアンス研修会等・JA全道大会

2010

1

vol.48

あさひかわ VOL.48 平成22年1月1日発行 編集発行あさひかわ農業協同組合 管理部総務課 印刷(株)アイピー農文協

旅行事業のご案内

お手伝い致します♪



航空券の手配

日本航空・全日空・エアドゥ
など各社海外航空券

JRきっぷの手配

新幹線・特急／指定席・乗車券

フェリーの手配

バス乗車券の手配

高速バス・定期観光バス

旅館・ホテル
民宿の予約職場旅行・グループ旅行・家族旅行
記念日旅行・出張 etc

お申込み・お問い合わせは下記にお願いします

北海道知事登録旅行業代理業第68号株式会社農協観光代理業

JAあさひかわ旅行センター TEL0166-31-3188

〒078-8234 旭川市豊岡4条1丁目(豊岡金融支所内)

北海道旭川赤十字血液センターより 血液製剤在庫不足による献血ご協力について

血液製剤の在庫が大ピンチ状況であり、冬季においては特に交通事故及び入院患者の増等により輸血の使用量が多くなる時期でもあります。この現状にご理解を頂き善意の献血に特段のご配慮をいただきますようお願い申し上げます。

献血場所 旭川市1条通8丁目(西武デパートB館9F) お問い合わせ Tel 25-5660

献血受付時間 AM 10:00～13:00

PM 14:00～18:00

1月末まで、献血推進キャンペーン中で粗品をプレゼント中で、また、今回依頼されてご協力いただいた方には、受付にて申し出てください、さらにもう1点粗品をプレゼントさせていただきます。

駐車場の案内

右記駐車場のご利用をお願いします。

★駐車場の使用につきましては、サービス券をお出しできますのでご利用下さい。

- | | |
|---------------|-----------|
| ① マカハパーキング | 宮下通り7丁目仲通 |
| ② 西武第2パーキング | 宮下通り10丁目 |
| ③ やまとパーキング | 宮下通り7丁目仲通 |
| ④ 西武第1パーキング | 1条通り8丁目 |
| ⑤ A.s.h(アッシュ) | 1条通り7丁目仲通 |
| ⑥ 2条パーキング | 2条通り8丁目 |
| ⑦ 2-7パーキング | 2条通り7丁目 |

JA ASAHIKAWA
あさひかわ

発行所/ あさひかわ農業協同組合
編集/ 管理部総務課
住所/ 旭川市豊岡4条1丁目274番地の2
電話/ 0166-31-0111 FAX/ 0166-31-1555
E-mail/ webmaster@ja-asahikawa.or.jp

新春を迎えて



代表理事組合長

山本 隆一

明けましておめでとうございます。組合員の皆様には、ご家族お揃いで新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

ご承知のように、年を重ねることに、わが国の農業経営と農家経済を取りまく環境は、厳しさを増すばかりで、一向に明るい兆しを期待することができない状況にあります。

一昨年の金融危機に端を発したアメリカ経済の失速にともなう世界的な経済危機は、わが国の経済をも直撃し、原油価格、穀物価格の高騰を背景に飼料、肥料などの生産資材が軒並み値上がりして農業生産コストが大幅に上昇し、わが国の農業にも大きなダメージを与えました。一方で消費者物価指数は下降をつづけ、昨年末、政府・日銀は、わが国の経済はデフレ軌道に入りつつあるとの見解を発表、景気は「二番底」に沈むとの指摘をされています。日米の政権交代で、農業政策の行方も流動的に推移すると予測される今年は、とくに慎重かつ的確な取り組みが必要であると自覚しているところでです。

国際的には、貿易自由化の圧力が依然として国内農業に暗い影を落としています。WTO（世界貿易機関）農業交渉は、いまだに事態打開の道筋が見えない迷路のなかにありますが、モダリティ（保護削減の基準）策定の合意を目指す事務局長案を軸にした方向性は変わらず、わが国が主張している重要品

目数8%は、相変わらずの厳しい状況にあります。

また、政権交代により大きく政策変更が進められるなかで、一時沈静化したかに見える日豪FTA（自由貿易協定）交渉も、マグマを貯めてわが国の農業に照準を合わせており、その動向にも注視して行く必要があります。

昨年の地域農業は、作況指数「83」の水稲を始め、各作物とも全般的に平年を大きく下回る残念な結果となりました。準試験栽培に取り組んだ期待品種「ゆめぴりか」も、基準品の生産率が13.6%と期待を大きく下回る結果に終わったことは、きわめて残念なことでした。ただ、「売れる米づくり」の取り組みとして全生産者で進めてきた「クリーン米（農薬成分11回以内）生産」はほぼ全量となり、「YES！clean米」の生産も、約3万俵を確保し、産地指定が高まったことは、組合員皆様の熱意と努力の結果と敬意を表するところであります。

今年は、「第3次農業・農協中期計画」の最終年度になります。第3次計画で私たちは、「新時代に向けた地域農業のステップアップ」を目指し、「売れる米づくり」を核にした持続可能な地域農業の構築を図ってまいりました。平成20年より取組んでまいりました「近文台演習場等周辺農業用施設設置助成事業」について、今年は低温農業倉庫と農産物検査場の完成の年であります。新設に伴い上川ライス

新春にあたり



北海道農業協同組合中央会会長

飛田 稔章

組合員をはじめJA役職員の皆様方が、希望に満ちた平成22年の新春を家族とともに迎えられたことを心からお喜び申し上げます。

昨年の本道農業は、夏の長雨と日照不足などの天候不順により、米の作況指数89になる等、総体的に平年作を下回る厳しい結果となり、その被害総額は約600億円の見込となりました。JAグループ北海道といたしましても、関係団体を含めた「平成21年度北海道農業団体冷湿害等対策本部」を設置し、北海道など関係団体と連携して、組合員の営農と生活の安定に向けて諸対応を行っているとあります。

さて、わが国の景気は、国内外の政策発動を主因とする効果により春先以降の持ち直しの動きがあるものの、失業率が5%を上回る高い水準にあり、依然として、世界の金融危機に端を発する経済混乱の影響を脱しきれない状況にあります。また、北海道農業は、農業者の高齢化と担い手の不足など、地域農業の構造変化が続く中で、農地制度改革や食料・農業・農村基本計画の見直し、戸別所得補償制度の導入検討など、農業政策は大転換期を迎えております。さらに、WTO農業交渉やEPA・FTA交渉の決着に向けた動きが模索されており、その決着如何では北海道農業はもとより、関連産業、地域経済にも深刻な影響をおよぼすことが危惧されております。このため、JAグループ北海道といたしましては、断固阻止の立

場から、今後も、全国のJAグループや道内の経済・消費者団体などと連携し、あらゆる対応を図ってまいります。こうした中、昨年開催した第26回JA北海道大会では、「協同の力で築く『あすの食をささえる北海道農業』」を主題とし、組合員がJA運動の主人公であることを再確認し、日本の食料基地北海道を自負するJAグループ北海道として、「北海道農業が保有する潜在能力をフル発揮して、農業者が農業生産に意欲的に取り組むことができるための農業所得の拡大に取り組む」とともに、「JAと組合員の強固な結びつきのもと、多様な事業機能の発揮により、組合員・地域住民のみなさまに利用されるJAづくりに向けて取り組むこと」を決議しました。

この決議事項は、向こう3カ年におけるJAが取り組むべき指針であり、その実践を通じて北海道農業がさらなるステップアップを図り、食料自給率の向上に寄与し、安全・安心な農畜産物の安定供給を通じて、消費者の皆さんが、北海道農業を応援してもらうための取り組みであり、また、JA経営においては、経営の健全化と強靱な経営基盤を確立し、組合員の期待に応じられる高度な事業機能を有するJAとなることを目指すものでありますので、全JAでの取り組みが求められるものであります。

最後に、金融不況による景気の低迷や、WTO農業交渉等の進展が、私ども農業界に与える影響

ターミナル集荷体制の整備と検査体制の集約化を図り集荷体制の強化、合理化と改善に努めてまいります。クリーン農業を機軸にした「JAあさひかわ」ブランド農産物の差別化と消費拡大、農畜産物の安全・安心の確保、生産性の確保、高付加価値化など第3次計画で目指したJAあさひかわ農畜産物確立の基本戦略に変わりはありません。新政権下での農政の行方はいまだ不透明ですが、今年度も生産・流通施設の整備拡充、組織運営体制の更なる整備を基本に各方策に取り組み、組合員はもとより地域住民に理解され、信頼されるJAあさひかわの構築に全力で取り組み、環境の変化に迅速かつ柔軟に対応できる経営体制の強化を通じて、信用事業、購買事業においてもより質の高いサービスの提供ができるJAづくりを展開してまいります。

今年も、組合員皆様からいただきましたご意見、ご要望を今後の事業運営に反映し、皆様の信頼と期待に応えられるように、役職員一丸となつて邁進してまいりますので、いつそうのご理解とご協力を切にお願いいたします。最後に組合員並びにご家族皆様方のご健勝と、豊穡の秋を迎えることができますよう心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

本年もよろしく
お願い致します。

役職員一同

が懸念されますが、全道の組合員の皆さんをはじめ役職員が「一人は万人のために、万人は一人のために」という協同組合の理念をより所にして、JAへの結束を強め、協同運動を強力に展開することにより、この苦境を打開できるものと確信しております。

本年は災害がなく豊穡の出来秋を迎えることができますよう心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

新年挨拶



青年部部长
村田 典彦

組合員の皆様、部員の皆様、明けましておめでとうございます。日頃より青年部活動に対し多大なるご協力、ご理解、ご支援を頂き心より感謝申し上げます。また、部員の皆様におかれましては日頃より青年部活動に対し御協力頂いている事を深くお礼申し上げます。

昨年は7月からの天候不順により品質や収量の低下を避けられない1年でした。稲作において道産期待の新品種の「ゆめぴりか」がデビューしましたが、消費者の期待に応えるだけの収穫量が得られない状況となりました。また、畑作物につきましても雨の影響による被害、青果物も出荷量の減少など非常に厳しい1年となりました。その反面、TV・ラジオ・新聞・雑誌等による農業への注目・関心は年々高まり、消費者との距離が益々近づいてきていると感じるところです。

このような状況の中、私たち青年部は活動を通して横の繋がりを大切に、互いに交流を深め、様々な行事に取り組んできました。その中でも米のPR活動では、直売所「あさがお」でサンプルの配布、札幌のスーパー2店舗で店頭試食販売を行い、JAあさひかわ米の「ほしのゆめ」をPRし、直接消費者と交流する場を設けることができました。また、昨年より後継者花嫁対策として「婚活事業」を取り入れ、独身青年部員の出会いの場を提供することもでき、卒にとられず多方面へ様々な事業展開を今後とも行っていくと思います。

リーマンショックから始まり、自民党から民主党への政権交代、デフレ、FTA交渉、食料自給率のアップ、その他山積する様々な難問題に対し、将来日本の食と農、子供たちの未来を守って行く食の安全・安心のために青年部一丸となって前向きに活動して行きたいと思っておりますので、組合員皆様の温かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。

終わりに、組合員の皆様のご健康とご多幸を心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年挨拶



女性部部长
大澤 厚子

新年明けましておめでとうございます。日頃より部員の皆様には多大なるご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

田中部長さんより後を引き継ぎ、各支部長さん・事務局さんの協力の元でようやく一年を迎えます。昨年は天候不順・低温・冷夏・日照不足・多雨と、自然相手の私達農家にとっては大変ご苦労された年になったと推察致します。

JAあさひかわ女性部の活動として、6月の一日研修ではそれぞれの農協支所施設を視察するという初めての試みを行い、今年は旭正・永山の2支所を視察しました。その後、鷹栖町のきゅうり共選施設を視察してグラントホテルで昼食を取り、市民文化会館にて早乙女太一「千年の祈り」の舞踏公演を鑑賞しました。この一日研修では太一君人気もあり、170名という大勢の部員より参加を戴きました。7月には農業まつりがありました。天気予報では雨という事でしたが、天候に恵まれフリーマーケット・ふかしも・ふかしかぼちゃ全て完売する事ができました。12月には上川地区Aブロック研修の当番農協となり、農協本所にて室内カーリングとビデオの上映を行い、参加者の皆さんと楽しく交流することが出来ました。

上川女性部の活動では、8月に東北北海道リーダー研修大会、9月に管外役員視察研修、10月に秋の収穫ファミリーキッチン（親子料理体験教室）、11月にリーダー研修・家の光大会、12月に上川女性部研修大会と参加をさせて戴き、管内女性部の仲間として共に活動し、皆さんのパワーに圧倒されながらも様々な刺激を貰っています。

私達農協女性部は、農業経営のパートナーとして安全な農畜産物を生産・提供し、また家族の健康を願って心豊かな生活を築く重要な役割を担っています。農家は体が資本と言われます。自らが健康でなければ何もできません。「ゆとり」「仲間作り」「助け合い」そんなお手伝いが少しでも出来る女性部組織でありたいと思います。

今後も女性部活動へのご参加・ご協力をお願いし、組合員皆様のご健康とご多幸をご祈念申し上げ、念頭のご挨拶と致します。

みんなのよい食プロジェクト

11月号の裏表紙の中でも少し紹介させていただきましたが、今月号ではさらに詳しく内容をご紹介します。

よい食プロジェクトへの取り組み

JAグループでは、安全・安心な国産農畜産物を提供する取り組みとともに、食のあり方や食料自給率の向上をアピールするため、「食は、日本の未来。」をテーマに「みんなのよい食プロジェクト」を展開しています。

昨年度から開始したこの運動。そのきっかけの一つとなったのが、原油や資材の価格高騰で生産コストが急激に上昇する一方、販売価格が低迷し、農業経営が大変厳しい状況を強いられたことです。資材価格は一頃の異常な状況からは低下したものの、最近再び上昇傾向にあることや景気低迷の影響なども重なって、生産現場の厳しい状況は依然として変わっていません。

シンボルマーク「美味ちゃん」
『食（しよく）』という漢字そのものをモチーフとして、よい食を笑顔で食べている姿に見立てられています。

よい食プロジェクト ホームページ
URL <http://www.yoi-shoku.jp/>

食料自給率の推移

現在、わが国の食料自給率はカロリーベースで41%。昨年8月中旬、農林水産省が発表したこの数値、世界的な食料価格の高騰を背景に、チーズや油脂用大豆の輸入減が生じたため、昨年に比べ1%上昇したとのことですが、それでもこれは主要先進国の中では最低の水準です。

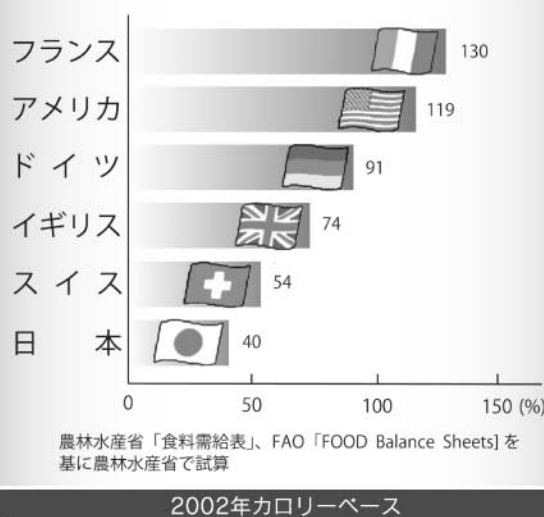
わが国が輸入農畜産物の多くを依存するアメリカやオーストラリアをはじめとして、将来的に局地的な水不足が懸念される国・地域が存在しています。食料の生産には当然「水」が必要ですが、食料を輸入するという事は、裏を返せば食料生産に必要な水を輸入・消費しているという考え方もできます。試算すると、日本は年間約640億トン（日本の年間灌漑用水使用量は約570億トン）もの水を輸入していることになるそうです（東京大学生産技術研究所の沖大幹教授らの推計）。因みにこの数字、東京ドームに換算すると、なんと約5万個分にも相当します。

一方、農林水産省によれば、わが国では、年間約1,900万トンもの食品廃棄物が排出されているとのこと。この中には、本来食べられるにもかかわらず捨てられているものが約500〜900万トン含まれると推計されています。人口増加をはじめ食用と資源エネルギーの両方の農産物の争奪など世界的な食料需給の問題を考えれば、

いつまでもこうした「食料浪費」は許されなくなると思われます。

日本の食の未来を輝かせるためには、生産者や消費者一人ひとりの「食」への心がけが必要です。組合員のみならず「よい食」実践に向けて「よい食」宣言」をしてみましよう。

主要先進国の食料自給率



出典…「食料・農業・農村白書
平成21年版」（農林水産省 編）、
農林水産省「食品ロスの削減に向けて」（平成21年3月）等



第4回 江丹別そばセミナー

第4回そばセミナー
いよいよ開催！

▲鶴飼氏が挨拶を兼ねて、
実演を前にわかりやすくそ
ばの講演をしてくれました。

▼特別に名人が行った水回
し後の、そば粉の感触が確
かめられました！



まさに名人芸！
そば打ち実演会

▼抽選で選ばれた参加者には、
なんと鶴飼氏から直接のそ
ば打ち指導が！



名人直々！
そば打ち講習会

▼最後はみんなで打ったそ
ばを江丹別そば処種の香で
調理してもらい美味しくい
ただきました。



上手にできたかな？

▲そばうち初体験の子ども
がんばってます。

懇切な直接指導に
大感激！

11月21日（土）、永山基幹支所内の農産物直売所あさ
がおにおいて、第4回江丹別そばセミナーが開催された。
前回に引き続き、（社）日本麺類業団体連合会会長の
鶴飼良平氏をお迎えし、そば打ち実演会を実施した。実
演の一部始終を録画する人、実演の最中に鶴飼氏が語る

そば打ちの秘訣を書き取る人、眼前で行われる名人芸を
じっと見つめる人など会場は熱気で満ちていた。
前回同様3回30名のそば打ち講習会を募集したが、今
回も参加希望者多数の為抽選となり、選ばれた参加者は
名人からの直接指導に大変な喜びようであった。

第4回

江丹別そばセミナー開催

営農情報

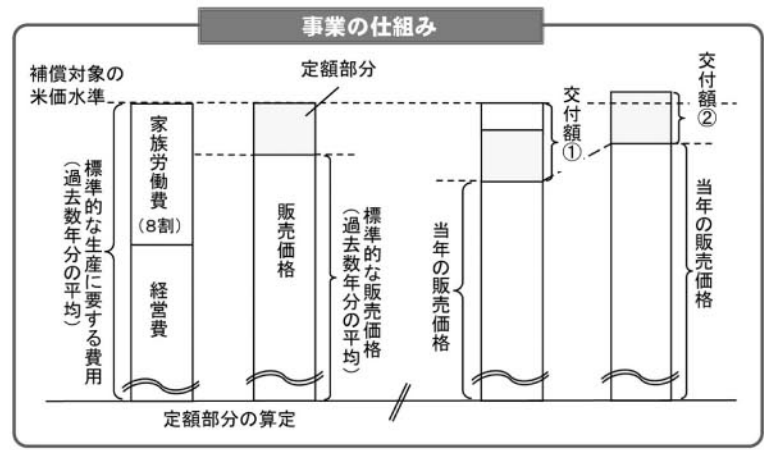
戸別所得補償制度

平成23年度から導入予定になっている戸別所
得補償制度に向けて、平成22年度より全国規模
で米戸別所得補償モデル事業と水田利活用自給力
向上事業が実施される見込です。
そこで、農林水産省から示されている事業の内
容をご紹介します。

米戸別所得補償モデル事業

○米の「生産数量目標」に即した生産を行った販売農家(集落営農を含む)に対して所得補償を直接支払により実施する

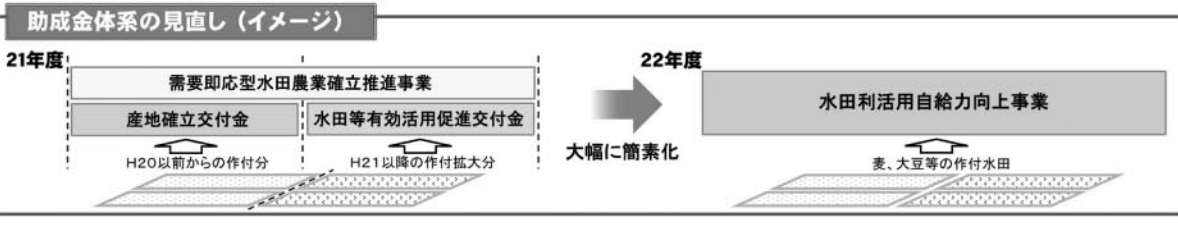
- ①標準的な生産に要する費用(過去数年分の平均)と販売価格(当年)との差額を全国一律単価として交付
- ②①の交付金のうち、標準的な生産に要する費用(過去数年分の平均)と標準的な販売価格(過去数年分の平均)との差額は定額部分として価格水準にかかわらず交付



- ### 今回の対策の5つのポイント
- ① 生産数量目標に即した生産者に対してのメリット措置。
 - ② 地域協議会などを經由せず、国から直接交付金を支払う。
 - ③ 米価変動に対応し、補償対象の米価水準まで所得を補償する、いわゆる「岩盤対策」。
 - ④ 要件の確認などは、市町村や地域協議会などに委託。
 - ⑤ 定額部分の単価は、20年度の生産費や21年産の米価水準を見て12月に決定。

水田利活用自給力向上事業

○ 水田を有効活用して麦、大豆、米粉・飼料用米等の生産を行う販売農家に対し、主食用米並みの所得を確保し得る水準を直接支払により交付



事業の仕組み

①助成単価
水田での作付面積に応じ、全国統一単価(その他作物を除く)で助成を実施

作物	単価(10a当たり)
麦、大豆、飼料作物	35,000円
新規需要米 (米粉用・飼料用・バイオ燃料用米、WCS用稲)	80,000円
そば、なたね、加工用米	20,000円
その他作物 (地域で単価設定可能)	10,000円

※この他、二毛作助成(戦略作物)15,000円/10aを実施

②助成要件
捨て作りを防止し、需要に応じた生産を促進するため、実需者との出荷契約等を確認

- ### 今回の対策の6つのポイント
- ① 作付規模、年齢を問わず、すべての販売農家が対象。
 - ② 米の生産数量目標の達成に関わらず、対象作物の作付面積に応じて交付。
 - ③ 作付拡大に対応できるよう、作付面積の実績に応じて、全国統一単価で助成(その他作物を除く)。
 - ④ その他作物に対する助成は、単価(10,000円/10a)に基づく支援枠を設け、地域の実情に応じて柔軟に助成対象作物・単価を設定。
 - ⑤ 水田の自給力の向上のため、新たに二毛作助成(戦略作物15,000円/10a)を実施。
 - ⑥ 麦、大豆については水田経営所得安定対策に基づく生産条件不利補正交付金(ゲタ交付金)を引き続き交付(21年度の全国平均で小麦約40,000円、大豆約27,000円)

※WCS：発酵粗飼料

旭正支所女性部 しめ飾り作り

日時:12月3日9:00~12:00
場所:旭正基幹支所会議室
部員参加 14名



KYOKUSEI

神居支所女性部 湯治研修

日時:12月1日~4日(3泊4日)
場所:十勝岳温泉 国民宿舎カミホロ荘
部員参加人数 17名



KAMUI

北野支所女性部 一泊研修会

日時:11月23日~24日
1日目 十勝川温泉第一ホテル豆陽亭
(春風亭小朝公演見学)
2日目 花畑牧場、幸福駅他見学
部員参加人数 13名



KITANO

永山支所女性部 宿泊研修会

日時:11月18日~19日
1日目 小樽運河工芸館で
ニューステンドアート製作体験
小樽運河 自由散策
宿泊先 小樽朝里クラッセホテル
2日目 ニッカウキスキー会館 見学
部員参加人数 16名



NAGAYAMA

中央支所女性部 宿泊研修会

日時:11月16日~18日
1日目・2日目 北湯沢 湯元名水亭にて温泉湯治
3日目 道の駅 だて歴史の社(藍染め体験他)
部員参加人数 24名



CHUOU

J Aあさひかわ青年部 一泊視察研修

J Aあさひかわ青年部は、11月11日(水)~12日(木)の二日間、部員35名、事務局1名の計36名の参加のもと、札幌方面での一泊視察研修を開催した。

この視察研修会は、例年、青年部事業の一環として開催しているもので、今回はアドワン丘珠農場を視察した。

アドワン丘珠農場では、主にベビリーフの生産を大型施設栽培にて行っている。「エネルギー高騰の時代であっても、札幌市内という都市型農業が可能であるとの考えのもとに、施設園芸と栽培研



究によって安全・安心な農産物を生産する」というこの農場の視察は青年部員に興味と刺激を与えたようであった。

今回の研修会は前年よりも参加者が多く、大変有意義な物になった。

J Aあさひかわ青年部 米のPR活動行方

青 年度のJ Aあさひかわ産米のPR活動が、今回は永山基幹支所内の「農産物直売所あさがお」と札幌市のマックスバリュ

ー豊平店・厚別店で行われた。

10月31日、農産物直売所あさがおで直売所の野菜を求めめるお客にサンプル米の配布を軸にPR活動を行った。

11月17日は札幌市のマックスバリュー豊平店・厚別店の二店舗同時に、火曜市開催で賑わう店内でマネキンを利用しての試食販売・数量限定の値下げ販売を行ってJ Aあさひかわ米をPR。通常時を大きく上回る販売数となり、「安全・安心」を伝えながら消費者にお米を手渡した。

J Aあさひかわ青年部 野菜ソムリエ萬谷さんを迎え 勉強会を行う

平 成21年12月11日(金)、J Aあさひかわ青年部で勉強会を開催した。農協役職員を来賓として招き、参加部員は40名と前年を超える出席であった。

今回は野菜ソムリエとして活躍

朝から長時間にわたり活動を続け、疲労もあったがそれ以上に効果と達成感を得た活動であった。



中の萬谷利久子(ばんやりくこ)さんを講師として迎え、「野菜ブームの今、メタボと美味しいベジフルライフ」と題して講演をいただいた。野菜に限らず自らの生産物に対して「キャッチフレーズを作る」「短い言葉で相手に売りを伝えるように」等、具体的な事例を含めて受講者の興味を惹き、サプリメントでは補えない「野菜の魅力」をメタボ防止を上手く絡ませながら話した。受講者は今まで受けた事のない講演に満足の拍手を萬谷さんに送っていた。

その後懇親会を開き、親睦を深め勉強会は盛会の内に終了した。



理事会だより

第11回理事会

平成21年10月22(木)

●協議事項

1. 平成21年度9月末に於ける事業実績(子会社含む)及び仮決算(子会社含む)の状況について
2. 監事による中間監査の回答について
3. 大口貸付及び理事に対する貸付について

●報告事項

1. 内部監査の実施報告について
2. 地区内営農状況について
3. 平成21年度米の出荷数量について
4. 営業時間の変更について
5. 平成21～22年度近文台演習場等周辺農業用施設(貯蔵施設)設置助成事業経過について
6. 平成21年度北野地区国営農地再編整備事業経過について
7. 肥料・燃油高騰対応緊急対策事業実績について
8. 共済事業にかかるコンプライアンス点検の結果について
9. 農家経営対策の取組みについて
10. 旭川市及び鷹栖町に対する平成22年度農業予算等に関する要望について
11. 第26回JA北海道大会について
12. 人事異動について
13. 今後の日程について
14. その他

【退職】お世話になりました

日付	氏名	職責	役職
12/31	岡田 一夫	推進役	旭川協同総業(株)出向
12/31	原 麻里子	係	神楽金融支所貯金共済課係
12/31	千葉 紀明	係	経済部営農販売課営農渉外専任(青果担当)係

【採用】よろしくお願いします

日付	氏名	職責	役職
1/1	岡田 一夫	準職員	旭川協同総業(株)出向(定年退職者再雇用)

振り込め詐欺に注意!

独立行政法人農業者年金基金の職員を装った振り込め詐欺(未遂)事件が発生

1. 発生場所・日時 新潟県・平成21年10月19日(日)午前
2. やりとり状況

新潟県の農業者宅に「農業者年金基金の収納係」を名乗る男性から電話があり、指定する銀行口座に未納分の農業者年金保険料約30万円を振り込むよう要求。「今日払えば受給権は守られるが、明日の振込なら消滅」、「振込人のあとに『(特別)』と記載すれば明日でも受け付ける特別な手続きをする」などと説明。電話応対した農業者は農業者年金の加入者でなかったため、相手方に「配偶者の保険料は払い込まれているか」と尋ねたところ、「調べてかけ直す」と言って電話を切り、それ以降連絡なし。

事件は幸い未遂に終わりましたが、未納保険料について農業者年金基金から直接被保険者の方に連絡することはありませんのでご注意ください。

第12回理事会

平成21年11月27日(金)

●協議事項

1. 平成21年度10月末に於ける事業実績(子会社含む)及び仮決算(子会社含む)の状況について
2. 大口貸付について
3. JASTEM次期システム移行時危機管理計画書等について
4. 平成21年度農業経営緊急支援資金の創設について
5. 平成22年度販売手数料及び各奨励施策等について
6. 組合員懇談会の開催について
7. 年末手当の支給について

●報告事項

1. 内部監査の実施報告について
2. 地区内営農状況について
3. 平成21年度米等の集荷状況について
4. 平成21年度「JAあさひかわ農産物」販売拡大推進について
5. 平成20・21年度農産物の概算金・精算金等又各種助成・補助金等の状況について
6. JAバンク基本方針に基づく「経営状況に関する事項の報告」について
7. 規程類の一部変更について
8. 平成21年度第4四半期余裕金運用方針及びリスク情報について
9. 年末年始の営業時間について
10. その他

おくやみ

謹んで故人のご冥福をお祈り申し上げます。

10/19	武田 新一さん	旭川中央地区その他農事組合
10/23	只石 政夫さん	旭正地区旭正1農事組合
10/26	稲田 考治さん	旭川中央地区信友農事組合
10/26	石崎 薫さん	旭正地区千代田農事組合
10/27	松崎 良一さん	旭正地区東部農事組合
11/3	藤井 文吾さん	旭川中央地区神楽岡農事組合
11/3	熊原 なつさん	永山地区10区2組農事組合
11/7	寺山 明則さん	旭川中央地区鉄北農事組合
11/10	濁沼 常治さん	永山地区その他農事組合(旧15区3組)
11/10	千代 信一さん	永山地区13区7組農事組合
11/14	橘 忠さん	永山地区1・3区農事組合
11/16	上田 ヨシエさん	永山地区14区農事組合
11/26	西田 政吉さん	旭正地区旭正1農事組合

(ともに正組合員)

JAあさひかわ

(平成21年11月末実績)

組合員数	正組合員	2,527名
	准組合員	25,961名
	合計	28,488名
出資金残高	1,951百万円	
販売取扱高	4,348百万円	
生産資材供給高	1,482百万円	
給油所供給高	1,273百万円	
生活供給高	322百万円	
貯金残高	97,845百万円	
融資残高	18,641百万円	
長期共済保有高	2,024億円	

概要

Aコープ大創業祭を開催

Aコープ北野店では、11月20日(金)・21日(土)の両日、Aコープ大創業祭を開催した。

当日は、通常よりも大特価でのご提供、生鮮品や各種清涼飲料水、生活用品などお買い得な品揃えに、来店された方々にも好評で、レジの前は一時行列になるほど。また店舗前テントでの温かい江丹別そばや、かりんとう詰め放題、缶すくいコーナーなどのお楽しみコーナーも賑わいを見せていた。

こうして2日間に渡るAコープ大創業祭は盛況の内に幕を閉じた。ご来店頂いた皆様、ありがとうございました。今後ともAコープのご利用をお願い致します。



Topics

第26回 JA 北海道大会開催

Topics



11月20日(金)札幌コンベンションセンターにて、第26回JA北海道大会が開催された。これは3年に一度の開催で、道内各JAの代表が集まり、今後のJAグループ北海道の基本方針を決議するものである。

今回は、協同の力で築く「あすの食をささえる北海道農業」をテーマに、全道各地から1,000名を超える参加者が集まった。

当農協からは組合長をはじめとした役職員、青年部・女性部の代表など33名が出席した。

大会議案としては今回2つあり、一つ目の「北海道農業の潜在能力のフル発揮への挑戦」として農業政策関連や食農教育関連、担い手の育成やバイオマス関連について、二つ目の「協同と信頼の絆で開く新時代のJA」では、JAグループ北海道の組織基盤の強化に関することや各種の事業、経営基盤に関することについて審議がなされた。

今回の大会決議の着実な実践に向けて、組合員ならびにJAグループ北海道の役職員の英知を結集し邁進することを大会宣言として、大会は閉会した。

当農協としても、宣言に基づき達成目標を設定して実践に取り組んでまいりたい。

JAあさひかわ コンプライアンス全職員研修会 情報セキュリティ研修会 開催

Topics

11月11日(水)、18日(水)に、本所・北野基幹支所において、全職員を対象にしたJAあさひかわコンプライアンス研修会並びに情報セキュリティ研修会を開催した。

コンプライアンスとは何かから始まり、JAとしての心構え、また各種の行動規範や実際の問題実例を挙げて学ぶ研修で、職員の代表者が順番に資料を音読した。

コンプライアンス研修の最後には、実際にコンプライアンスに対しての理解度や実施しているかの自己チェックを実施。

実際の業務を想定してのコンプライアンスとは何かを考える研修であったので、職員の理解度も高く、今後JA職員としてあるべき姿を再構築する有意義な研修であった。

コンプライアンス研修終了後は、情報セキュリティ研修会を実施。上田経営管理課長より情報セキュリティの定義、大切さ、また日々の業務における注意事項について説明がなされた。

※コンプライアンス：法令等遵守

